現俳協・評議員

現代俳句3人3句選アンケート
句別ランキング

2025年8～9月実施

作者	順位	選句	選句数	選句数計
金子兜太	3	おおかみに螢が一つ付いていた	8	34
	3	梅咲いて庭中に青鮫が来ている	8	
	6	彎曲し火傷し爆心地のマラソン	4	
	6	銀行員等朝より螢光す烏賊のごとく	4	
	6	人体冷えて東北白い花盛り	4	
	39	夏落葉有髪も禿頭もゆくよ	1	
	39	原爆許すまじ蟹かつかつと瓦礫あゆむ	1	
	39	男鹿の荒波黒きは耕す男の眼	1	
	39	死にし骨は海に捨つべし沢庵噛む	1	
	39	暗黒や関東平野に火事一つ	1	
	39	頭痛の心痛の腰痛のコスモス	1	
池田澄子	1	じゃんけんで負けて蛍に生まれたの	11	13
	39	沖がすみ人のほとんど知り合わず	1	
	39	蝶よ川の向こうの蝶は邪魔ですか	1	
渡邊白泉	1	戦争が廊下の奥に立つてゐた	11	13
	39	地平より原爆に照らされたき日	1	
	39	夏の海水兵ひとり紛失す	1	
富澤赤黄男	5	蝶墜ちて大音響の結氷期	7	11
	39	美しきネオンの中に失職せり	1	
	39	夕焼のやうな魚をさげてくる	1	
	39	灯をともし潤子のやうな小さいランプ	1	
	39	やがてランプに戦場の深い闇がくるぞ	1	
鈴木六林男	6	暗闇の眼玉濡さず泳ぐなり	4	10
	13	遺品あり岩波文庫『阿部一族』	3	
	19	天上も淋しからんに燕子花	2	
	39	暗い地上へあがつてきたのは俺かも知れぬ	1	
高野ムツオ	13	泥かぶるたびに角組み光る蘆	3	10
	19	陽炎より手が出て握り飯掴む	2	
	19	車にも仰臥という死春の月	2	
	39	泥酔われら山脈に似る山脈となれず	1	
	39	出力は無限吹雪の夜の白鳥	1	
	39	万の翅見えて来るなり虫の闇	1	
西東三鬼	6	広島や卵食ふ時口ひらく	4	9
	13	水枕ガバリと寒い海がある	3	
	19	算術の少年しのび泣けり夏	2	
攝津幸彦	13	国家よりワタクシ大事さくらんぼ	3	7
	19	露地裏を夜汽車と思ふ金魚かな	2	
	39	階段を濡らして昼が来てゐたり	1	
	39	南国に死して御恩のみなみかぜ	1	
高柳重信	19	身をそらす虹の/絶巓/処刑台	2	7
	19	船焼き捨てし/船長は//泳ぐかな	2	
	39	日が/　　落ちて/山脈といふ/言葉かな	1	
	39	軍鼓鳴り　荒涼と　秋の　痣となる（４行）	1	
	39	杭のごとく／墓／たちならび／うちこまれ	1	

作者	順位	選句	選句数	選句数計
阿部完市	13	少年来る無心に充分に刺すために	3	6
	39	栃木にいろいろ雨のたましいもいたり	1	
	39	ポーランド三日四日五日間である	1	
	39	ローソクもつてみんなはなれてゆきむほん	1	
飯島晴子	39	かくまでももみづれるとは荒蝦夷（あらえみし）	1	6
	39	葛の花来るなと言つたではないか	1	
	39	はんざきの傷くれなゐにひらく夜	1	
	39	泉の底に一本の匙夏了る	1	
	39	八頭いづこより刃をいるるとも	1	
	39	寂しいは寂しいですと春霰	1	
加藤楸邨	19	雉子の眸のかうかうとして売られけり	2	6
	19	火の奥に牡丹崩るるさまを見つ	2	
	39	天の川わたるお多福豆一列	1	
	39	木の葉ふりやまずいそぐないそぐなよ	1	
三橋敏雄	6	あやまちはくりかへします秋の暮	4	6
	39	いつせいに柱の燃ゆる都かな	1	
	39	鐵を食ふ鐵バクテリア鐵の中	1	
宇多喜代子	13	八月の赤子はいまも宙を蹴る	3	5
	39	山ひとつ潰したあとの女郎花	1	
	39	天空は生者に深し青鷹（もろがえり）	1	
坪内稔典	19	たんぽぽのぽぽのあたりが火事ですよ	2	5
	19	三月の甘納豆のうふふふふ	2	
	39	がんばるわなんて言うなよ草の花	1	
赤尾兜子	6	音楽漂う岸侵しゆく蛇の飢	4	4
大井恒行	39	針は今夜かがやくことがあるだろうか	1	4
	39	林檎の花散るは都の外ならん	1	
	39	除染また移染にしかず冬の旅	1	
	39	戦争に注意　白線の内側へ	1	
石田波郷	39	寒椿つひに一日のふところ手	1	4
	39	吹きおこる秋風鶴をあゆましむ	1	
	39	春雪三日祭の如く過ぎにけり	1	
	39	雪はしづかにゆたかにはやし屍室	1	
高屋窓秋	13	頭の中で白い夏野となつてゐる	3	4
	39	山鳩よみればまはりに雪がふる	1	
松澤昭	39	凩や馬現れて海の上	1	4
	39	闇凍てて遠くの闇の白らむなり	1	
	39	夜は子の眼しきつめ流氷期	1	
	39	天上のやうに耕しはじめたる	1	
山口誓子	39	夏の河赤き鉄鎖のはし浸る	1	4
	39	夏草に汽罐車の車輪来て止る	1	
	39	海に出て木枯帰るところなし	1	
	39	炎天の遠き帆やわが心の帆	1	
佐藤鬼房	39	愛痛きまで雷鳴の蒼樹なり	1	4
	39	陰に生る麦尊けれ青山河	1	
	39	吐瀉のたび身内をミカドアゲハ過ぐ	1	
	39	齢来て娶るや寒き夜の崖	1	

作者	順位	選句	選句数	選句数計
正木ゆう子	39	たらちねのははそはのはは母は羽羽	1	3
	39	水の地球すこしはなれて春の月	1	
	39	美しいデータとさみしいデータに雪	1	
黒田杏子	39	白葱のひかりの棒をいま刻む	1	3
	39	花満ちて花散りてこの世つぎの世	1	
	39	磨崖仏おほむらさきを放ちけり	1	
藤田湘子	39	あめんぼと雨とあめんぼと雨と	1	3
	39	鯉老いて真中を行く秋の暮	1	
	39	愛されずして沖遠く泳ぐなり	1	
佐怒賀正美	39	いくさ数多さりとて虹も無尽蔵	1	3
	39	空豆にファラオの眉の如きもの	1	
	39	弾力の残る地球を蟇あゆむ	1	
石牟礼道子	19	祈るべき天とおもえど天の病む	2	2
桂　信子	19	たてよこに富士伸びてゐる夏野かな	2	2
関悦史	19	人類に空爆のある雑煮かな	2	2
田原千暉	19	落書に芽の出るような妻と十年	2	2
永田耕衣	19	白梅や天没地没虚空没	2	2
野ざらし延男	19	黒人街狂女が曳きずる半死の亀	2	2
林田紀音夫	19	鉛筆の遺書ならば忘れ易からむ	2	2
堀田季何	19	息白く唄ふガス室までの距離	2	2
成清正之	39	まだ風になれぬ少年青野にいる	2	2
飴山實	39	うつくしきあぎととあへり能登時雨	2	2
飯田龍太	39	一月の川一月の谷のなか	1	2
	39	月の道子の言葉掌に置くごとし	1	
大牧広	39	開戦日が来るぞ渋谷の若い人	1	2
	39	遠い日の雲呼ぶための夏帽子	1	
岸本マチ子	39	うりずんのたてがみ青くあおく梳く	1	2
	39	狼をとき放したりわが荒野	1	
神野紗希	39	カンバスの余白八月十五日	1	2
	39	起立礼着席青葉風過ぎた	1	
橋閒石	39	噴水にはらわたの無き明るさよ	1	2
	39	階段が無くて海鼠の日暮かな	1	
松尾芭蕉	39	風流の初めや奥の田植歌	1	2
	39	さまざまの事おもひ出す櫻かな	1	
寺山修司	39	目つむりていても吾を統ぶ五月の鷹	1	2
	39	枯野ゆく棺のわれふと目覚めずや	1	
宮坂静生	39	白萩や妻子自害の墓碑ばかり	1	2
	39	田の泥の目鼻持たざる涅槃かな	1	
津田清子	39	無方無時無距離砂漠の夜が明けて	1	2
	39	はじめに神砂漠を創り私す	1	
大畑等	39	なんと気持ちのいい朝だろうああのるどしゅわるつねっがあ	1	2
	39	文鳥を手に載せ我ら何処へ行くのか	1	
田中裕明	39	空へゆく階段のなし稲の花	1	2
	39	水遊びする子に先生から手紙	1	
河原枇杷男	39	或る闇は蟲の形をして哭けり	1	1
櫂未知子	39	春は曙そろそろ帰ってくれないか	1	1
鳥居真里子	39	椿一輪からだからああ、出てゆかぬ	1	1
稲畑汀子	39	落椿とは突然に華やげる	1	1

作者	順位	選句	選句数	選句数計
岡井省二	39	蛇がまぐはひ真空に虹また虹	1	1
吉村毬子	39	飲食のあと戦争を見る海を見る	1	1
松井国央	39	父抜けてゆきし網戸を母も抜け	1	1
中尾壽美子	39	はじめから烟りでありし冬の姥	1	1
安井浩司	39	ひるすぎの小屋を壊せばみなすすき	1	1
穴井太	39	還らざる者らあつまり夕空焚く	1	1
鷹羽狩行	39	摩天楼より新緑がパセリほど	1	1
三好達治	39	柿うるる夜は夜もすがら水車	1	1
河東碧梧桐	39	赤い椿白い椿と落ちにけり	1	1
松尾あつゆき	39	あわれ七ヵ月のいのちの花びらのような骨かな	1	1
杉野一博	39	海を張る七月いよいよ飛ぶか象	1	1
徳才子青良	39	かたつむり湖わたらねば目を失う	1	1
秋尾敏	39	学校の柳が髪をふりみだす	1	1
京武久美	39	八月を展けば神と頭陀袋	1	1
大道寺将司	39	棺一基四顧茫々と霞みけり	1	1
松本勇二	39	捕手として育ち初冬の俳句詠み	1	1
大坪重治	39	きのうより大きな真昼白山茶花	1	1
北大路翼	39	キャバ嬢と見てゐるライバル店の火事	1	1
轡田進	39	貯金しに来てゐる母子チューリップ	1	1
齊藤美規	39	可惜夜（あたらよ）の桜かくしとなりにけり	1	1
五十嵐研三	39	とぼとぼと歩き力の要る雪道	1	1
中島斌雄	39	雲秋意琴を売らんと横抱きに	1	1
津沢マサ子	39	何もなし飛彈山中の火打石	1	1
荻原井泉水	39	えいえんにはるのゆきふる法隆寺	1	1
鈴木明	39	原爆忌少女のようなお婆さん	1	1
大須賀乙字	39	火遊びの我れ一人ゐしは枯野かな	1	1
横須賀洋子	39	冷奴日暮れのギリシャ見ておりぬ	1	1
小川双々子	39	後尾にて車掌は広き枯野に飽く	1	1
久保純夫	39	虚空より落ちくちなわとなりゆけり	1	1
堀口孝子	39	国籍は月と言い張る兎飼う	1	1
黒崎溪水	39	弥陀よ青い葉が青いまま散っている	1	1
鈴木しづ子	39	コスモスなどやさしく吹けば死ねないよ	1	1
安西篤	39	雌ねじから弛みはじめし春の家	1	1
高濱虚子	39	去年今年貫く棒の如きもの	1	1
細谷源二	39	今年また山河凍るを誰も防がず	1	1
なつはづき	39	父の日や置きっぱなしのじょうろに水	1	1
高木架京	39	さみしい兄よラムネの泡はいつもあふれる	1	1
久保田万太郎	39	三月や水をわけゆく風の筋	1	1
楠本憲吉	39	天にオリオン地には我等の足音のみ	1	1
たむらちせい	29	鹿として怖るべき世に生まれたる	1	1
矢島渚男	39	遠くまで行く秋風とすこし行く	1	1
大中祥生	39	七人の髭が濃く来る海市かな	1	1
大石雄介	39	青柿打ちつづければ輝く放蕩	1	1
石原八束	39	死は春の空の渚に遊ぶべし	1	1
対馬康子	39	写真にはたくさんの息夏落葉	1	1
平山礼子	39	夏の終わりの有刺鉄線を越える	1	1
石橋秀野	39	夏の月肺壊えつゝも眠るなる	1	1
日野草城	39	春暁や人こそ知らね木々の雨	1	1

作者	順位	選句	選句数	選句数計
原民喜	39	廃墟すぎて蜻蛉の群を眺めやる	1	1
長谷川かな女	39	羽子板の重きが嬉し突かで立つ	1	1
酒井弘司	39	宇宙さみし一月のコーヒー店	1	1
石川まゆみ	39	八月や生きてるうちにできること	1	1
長谷川櫂	39	春の水とは濡れてゐる水のこと	1	1
篠原鳳作	39	しんしんと肺碧きまで海の旅	1	1
福田若之	39	春はすぐそこだけどパスワードがちがう	1	1
名取思郷	39	飛燕あざやか厄年の釘撃てば曲る	1	1
宇佐美魚目	39	すぐ氷る木賊の前のうすき水	1	1
加藤郁乎	39	昼顔の見えるひるすぎぽるとがる	1	1
岡本眸	39	朝鵙や女むざむざとは死なぬ	1	1
伊丹三樹彦	39	正視され　しかも赤シャツで老いてやる	1	1
中村草田男	39	世界病むを語りつつ林檎裸になる	1	1
夏井いつき	39	青き踏めマスクを鳩として放て	1	1
森澄雄	39	ぼうたんのひゃくの揺るるは湯のやうに	1	1
足立雅泉	39	星の深さに二階屋低し夜業終ふ	1	1
小林貴子	39	若葉には若葉のものゝあはれかな	1	1
瀬川剛一	39	底霧や妻には別のバスが来る	1	1
高山れおな	39	麿、変？	1	1
今野龍二	39	體内にとぼそのいくつ梅雨湿り	1	1
中村和弘	39	巨鮫(おおざめ)の腹たぶたぶと曳かれ来る	1	1
細井みち	39	七夕やゆびきりをして五十年	1	1
山口いさを	39	ものを背負へばいくさめく夜の遠蛙	1	1
飯田蛇笏	39	たましひのたとへば秋のほたるかな	1	1
松村蒼石	39	たわたわと薄氷に乗る鴨の脚	1	1
津根元潮	39	だんだんと本気になって花の散る	1	1
村井和一	39	夜霧が漉し飴だったら男女同権を認める	1	1
橋本多佳子	39	乳母車夏怒涛に横向きに	1	1
森田緑郎	39	地球いま羽落としおり返り花	1	1
中村汀女	39	咳の子のなぞなぞあそびきりもなや	1	1
種田山頭火	39	分け入っても分け入っても青い山	1	1
井沢唯夫	39	わがこゑをけふの枯野の最後とす	1	1
知念ひなた	39	アイスキャンディー栄養ないし好き	1	1
山田みづえ	39	悪女たらむ氷ことごとく割り歩む	1	1
阿部青鞋	39	想像がそつくり一つ棄ててある	1	1